

聞 ・ 聞 ・ 聞

発行責任者 浄土真宗本願寺派 正善寺 住職 酒井光義 平成28年5月21日
〒802-0045 北九州市小倉北区神岳二丁目10番31号 電話093(541)2409番

すでに道ありき —確かなよりどころをいただく人生—

病とのであい 幼い頃からたびたび、風邪をひいて扁桃腺が腫れ、高熱が出ることもありましたが。昨年の秋にも同じような症状がありました。ところが、夜中に起き上がろうとすると、掛け布団が重いのです。さらに高熱があり、今までに感じたことのない強い痛みが全身を駆け巡りました。病院で検査を受けると、「関節リウマチの可能性があるので、早めに専門病院で検査を受けてください」とのことでした。数日後には、熱は下がり、体の痛みもすっかりなくなって、爽快な朝を迎えることができました。

一週間後、布教の縁を終えての帰り道、ハンドルを握っている手に一瞬、こわばりを感じたのです。車を止めて安静にしていると治まりましたが、今度はペットボトルのふたを開けようとしても、開けることができないのです。体からの警告に危機感を覚えた私は、早速、専門の外來で精密検査を受けました。

「藤井さん、早期の関節リウマチです。現在は症状が出ていなくても、今後、強い痛みが出てくることも考えられます。今は、研究が進んで早期発見で、早期に治療を開始すれば、寛解(治癒)に至る患者さんが増えていきます。人によって、合う薬の種類も量も注射も個人差がありますので、定期的に検査をしながら副作用にもじゅうぶん注意をして、しっかりと治療していきましょう」と担当の医師。私は「早期発見」「寛解」という言葉に希望を見いだしました。治療を始めて半年が経過した頃から、体調が良好になって劇的に回復し、検査の結果が、それを裏付ける数値になっていました。しかし、これから先ずっと健康で、若々しく、死なない人生が永遠に続いていくなどあり得ません。

人生の根本問題 お釈迦様が説かれた仏教は、人間に生まれ、年老いて、あるいは病にかかり、最後には命を終える、という誰一人避けて通ることができない生老病死という、人生の根本の苦しみを教えてください。健康なときには、まったく考えもしなかったことですが、自分が病気になってみると、いかに深刻な苦しみであるか、身にしみます。老いていく中で、さまざまな悩みを体験するようになって、老苦がいかに厳しい問題かを知らされます。しかし、私たちは、刻々と変わっていく無常の身でありながら、明日もあさっても、死ぬなどということは考えたくない、考えてもしかたがない、死を遠ざけごまかして、今の状態と同じように元気で生活できるものと信じ込み、今日一日を過ごしています。

親鸞聖人は、『教行信証』の冒頭で、これから頭わそうとされる浄土真宗の教えの中心は、救いの根本である阿彌陀如来の本願と、何ものにもさまたげられない阿彌陀如来の光明であると、お示しくださっています。「ひそかにおもんみれば、難思の弘誓は難度海を度する大船、無礙の光明は無明の闇を破する恵日なり」阿彌陀さまの光明に照らされた私のほんとうの姿は、さとりに役立つものを何一つ持ち合わせていない、どこをとってみても、ただ迷いの世界に沈み続けるしかない凡夫なのです。だからこそ、阿彌陀さまは、凡夫が凡夫のまま、迷いの世界を抜き出すことのできる確かな救いの法である本願を建立されたのです。阿彌陀さまの「われにまかせよ、わが名を称えよ、浄土に生まれさせて仏にならしめん」という本願は、お誓いの通りに完成された、「南無阿彌陀仏」のよび声となって、仕上がってくださいました。阿彌陀さまの智慧と慈悲を円に具えた救いのはたらきである「南無阿彌陀仏」を称え、聞かせていただき、確かなよりどころをいただいた人生は、阿彌陀仏の大悲のお心に導かれる人生です。人生でもっとも苦しい死を乗り越える道はすでに、阿彌陀さまによって開かれていたのです。藤井 静 蕉

熊本地震に関する総長談話

2016(平成28)年4月14日に発生した『平成28年熊本地震』により被災された皆様
に衷心よりお見舞い申し上げます。この度の地震によっていのちを失われた皆様、さらには
ご遺族のみなさまへ、心から哀悼の意を表します。また、被災され避難生活を余儀なくされ
る方、ご縁の方の安否を気遣い不安の中におられる方の心情をお察し申し上げますととも
に、安否が定かでない方々が一刻も早く救出されますことを願っております。宗門では、地
震発生直後から復旧支援隊の派遣と支援物資の運搬並びに義援金の受け付けを開始いたし
ました。さらに「熊本地震緊急災害対策本部」を中央に設置するとともに、熊本教区教務所
(本願寺熊本別院内)に「現地緊急災害対策本部」を設置し、被害状況の把握に努め、物心両
面にわたる支援をいたしております。未だ余震が続くなか先行きの見えない不安を抱えなが
らの生活は、想像を超えた厳しいものであることと存じます。被災地等におきまして救援や
復興支援などの活動にご尽力されておられる方々に深く敬意を表しますとともに、皆様
の安全と一日も早い復興を願い、宗門として全力で支援してまいりたいと思ひます。ご協
をお願ひ申し上げます。

2016(平成28年)4月19日 浄土真宗本願寺派 総長 石上智康

浄土真宗本願寺派 たすけあい運動募金「平成28年熊本地震災害義援金」

郵便振替 01000-4-69957 加入者名：たすけあい募金

*通信欄に「熊本地震」と記入

銀行振込 ゆうちょ銀行 一〇九店(イチゼロキュウテン)(当座) 0069957

名義：たすけあい募金

*通信欄に「熊本地震」と記入

正善寺仏教婦人会の会員に入って下さる方を募集中

28年度の内容

年会費 千円

5月 浄土真宗の基礎のお話

6月 お香とアロマを学んで香袋づくり

9月 ヨガ(笑いヨガ)で心と身体を健康に

10月 バスハイク(糸島めぐり)

2月 絵手紙に挑戦して、手紙をだしましう



入会お待ちしております



ご 案 内

永 代 経 法 要

	6月4日(土)	6月5日(日)
昼 席	午後1時30分	午後1時30分

と き 平成28年6月4日より6月5日まで

講 師 当 山 住 職 自 勤

どうぞお誘いあわせのうえお参り下さい。

初 参 式

と き 平成28年6月5日(日) 午前11時開式

幼児が初めて仏様の前にてお参りをする儀式です

- ◎ 家族お揃いで、**30分前にご集合**ください。
手形の色紙作りをします。終了後、記念撮影を致します。
- ◎ 参加申し込みは、準備の都合により5月31日(火)までに、お寺へお知らせください。お待ちしております。

法 要 準 備 会

1人でもたくさんの方がきていただくと本当に助かります。
どうぞよろしくお願いたします

6月1日(水) 10:00 から 15:00 まで

本堂、納骨所もみんなで綺麗に致します。**昼食準備**しています。

法要終了後のお楽しみ

6月5日(日) 午後5時より開催予定

保育園運動場において

バ ー ベ キ ュ ー 大 会

を開催します。

お聴聞の後はおさらおいしくいただけますよ!!ご参加ください。

参加費 大人 1名につき 2,000円 子ども1名につき 1,000円
準備のため、申し込みは 法要開始の前日 4日までにお寺へ申し込みください。

行事のご案内【如来大悲の恩徳は 身を粉にしても報ずべし】

小倉組仏教婦人会総会・研修会

6月15日(木) 13:00より15:30まで

会場 大手町 永照寺 本堂

講師 安武真哉師

第25代専如門主伝灯報告法要

小倉組団体参拝 第2班案内

Aコース

29年3月28日(火)・29日(水)

Bコース

29年3月28・29・30日(木)

盂蘭盆会(盆会)(うらぼんえ)

8月13・14・15日はお盆です。正しくは「盂蘭盆会」といいます。どうぞ自由にお参り下さい。納骨所利用の方はぜひおいで下さい。なお、お盆の門徒宅お参りは**8月初めより実施**しています。都合のある方、時間に制限のある方は、早めにお寺に申し込み連絡下さい。早めの期間であれば時間通りにお伺いできます。

平成28年夏のつとめ

とき 7月23日(土)16:00~18:00

ところ 神岳保育園園庭

参加対象 自由

イベント 食品、手作りバザー各種

ゲーム大会 園児の盆踊り

園児の祇園太鼓披露

神岳保育園・父母の会主催

次回の法要のご案内

秋季彼岸法要

■ 平成28年9月17日(土)(昼席)・18日(日)(昼席)

【講師】 行橋市 本願寺派布教使 高岡昭信師

準備会のお知らせ 9月14日(水)10:00より15:00まで 昼食準備します。

編集後記

新緑も空の青さも本当にきれいな五月のよい季節です。きれいな青空を見上げて、心が元気になって下さる方々がたくさんいてくださることを念じるばかりです。

寺の新聞「聞・聞・聞」は今回で111号になりました。年四回出させて頂いているので28年ほどになります。「届いたよ。読ませて頂いているよ。ありがとうね。」といつも「聞・聞・聞」が届くたびに電話を下さり、お寺の様子を楽しみにして下さった伯父が五月、仏さまの待つお浄土へとかえって往かれました。嫁いってから、いつも心にかけて下さり、やさしい笑顔と言葉を下さいました。伯父への感謝の想いもこめて、今回も作らせて頂きましたが、もう伯父に読んでもらえないと思うとさみしさがつります。

先日、急ぎ足で小倉の街を歩いていました。はっとして、思わず立ち止まり、泣きそうになりました。一年間通るのがこわくて知らず知らずさけていた道、父とよく歩いた懐かしい道でした。あんまり急いでいたのですが、杖をつく父とならんで歩いていた幸せな光景を突然思いだし、ひとり泣きそうになったのです。「悲しいなあ さみしいな」と懐かしい光景さえも涙してしまうのです。つらいことですが父を亡くしてお身内を亡くされた御門徒さまのおこころにちかづかせていただけたような気がします。そして、『仏様の道をおるいてくれよ』と教えてくれた父の気持ちにも南無阿弥陀仏のありがたさにも遇えることができました。嬉しい時、かなしい時、さみしい時、南無阿弥陀仏がすべてのことを包んで下さるのですね。

永代経法要、どうぞお参りください。薫風の中、仏様のお声に耳を傾けられませんか。お待ちいたしております。

合掌